

5. 栃木県小児糖尿病サマーキャンプの報告

小児科学 (内分泌)

金澤早苗、小嶋恵美、小山さとみ、沼田道生、西倉 潔、仲島大輔、白岩妙子、根岸正穂、山崎 弦、栗林良多、宮本健志、三井直弥、栗林武男、有阪治

〈はじめに〉栃木県小児糖尿病サマーキャンプは平成10年から、毎年8月にとちぎ海浜自然の家で開催されている。〈対象と参加者〉：栃木県在住の1型糖尿病の小、中、高校生を対象としその他に、学生ボランティア、栄養士、医師が共に行動する。〈活動内容〉：血糖測定、インスリン注射、食事のカロリー計算、低血糖時の対応、学習会、水族館見学、レクリエーションなど。糖尿病サマーキャンプの意義：1. 糖尿病についての知識を増やす。2. 自己管理する意識を深める。3. 友達をたくさん作り、楽しくすごしながら、病気を共有する仲間同士での情報交換をする。まとめ：今後とも、多くの方々の理解と協力を得ながら本キャンプが続くように努力をしたい。

6. アルコール代謝関連酵素の遺伝子型と循環器系危険因子との関係

内科学 (循環器)、健康管理科

南 順一、小野英彦、石光俊彦、松岡博昭
大類方巳、堀江かおり、渡辺菜穂美

目的：飲酒と血圧や血清 HDL コレステロール値などの循環器系因子との関係をアルコール代謝を担う種々の酵素の遺伝子型別に検討した。

対象・方法：2000年度の当院人間ドック受診者で文書にて同意の得られた313例を対象に、EDTA採血による末梢血を用いてゲノムDNAを抽出し、PCR-RFLP法によりALDH2、ADH2、ADH3、CYP2E1などのアルコール代謝関連酵素の遺伝子型を解析した。

結果：ALDH2の遺伝子型は正常ホモ型が52%、ヘテロ型が40%、変異ホモ型が8%であった。高血圧の合併頻度は、正常ホモ群が他の2群に比べて有意に高値であった。血清HDLコレステロール値は、正常ホモ群がヘテロ群に比べて有意に高値を示した($P < 0.05$)。一方、CYP2E1、ADH2、ADH3の遺伝子型と高血圧の合併頻度や血清HDLコレステロール値との間に有意の関連は認められなかった。